

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成19年7月19日(2007.7.19)

【公表番号】特表2007-500069(P2007-500069A)

【公表日】平成19年1月11日(2007.1.11)

【年通号数】公開・登録公報2007-001

【出願番号】特願2006-533511(P2006-533511)

【国際特許分類】

**A 6 1 B 17/58 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 B 17/58 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成19年5月23日(2007.5.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

長手軸を画成する骨板であって、

上表面を備え、

下表面を備え、

第1の骨アンカー具の頭部に係合するための第1の穴であって、第1の固定軸を有し、第1の骨アンカー具の心棒を前記第1の軸に沿って単一の固定角度で固定するように構成されかつ適合された第1の穴を備え、

前記長手軸に沿って前記第1の穴から離間された第2の穴であって、

第2の骨アンカー具の頭部に係合するための第2の穴であって、第2の固定軸を有し、第2の骨アンカー具の心棒を第2の軸に沿って単一の固定角度で固定するように構成されかつ適合された前記第2の穴を備えて

前記第1の穴および第2の穴は、前記第1の軸および前記第2の軸が単一平面を画成しかつ前記下表面の下方の点で交差するように構成された骨板。

【請求項2】

第3の骨アンカー具の頭部に係合するための第3の穴であって、第3の固定軸を有し、前記第3の骨アンカー具の心棒を前記第3の軸に沿って単一の固定角度で固定するように構成されかつ適合された第3の穴を備えて、

前記第3の穴は前記第1の穴と第2の穴との間に配置され、前記第3の軸は前記第1および第2の軸によって画成された前記平面に対して角度を成して位置する、請求項1に記載の骨板。

【請求項3】

前記第1、第2、および第3の穴は、前記骨板の前記長手軸に沿って位置する、請求項2に記載の骨板。

【請求項4】

前記第1および第2の穴の少なくとも一つは、一部にねじが切られ、かつ一部はねじが切られていないものである、請求項1に記載の骨板。

【請求項5】

一部にねじが切られた前記少なくとも一つの穴は、ねじが切られていない上部領域と、ねじが切られた中間領域と、ねじが切られていない下部領域とを有する、請求項4に記載の

骨板。

【請求項 6】

前記上部領域は、前記上表面から前記下表面に至る方向に湾曲した又は球面の内向きテーパを有する、請求項 5 に記載の骨板。

【請求項 7】

前記中間領域は、前記上表面から前記下表面に至る方向に、円錐内向きテーパを有する、請求項 5 に記載の骨板。

【請求項 8】

前記中間領域は、 $5^\circ$  から  $15^\circ$  までの角度でテーパが付けられた、請求項 7 に記載の骨板。

【請求項 9】

前記下部領域は、上から下へ、円錐外向きテーパを有する、請求項 5 に記載の骨板。

【請求項 10】

前記中間領域は、前記上部領域および下部領域の直径よりも小さい直径を有する、請求項 5 に記載の骨板。

【請求項 11】

前記第 1 および第 2 の穴は、前記骨板の前記長手軸に沿って位置する、請求項 4 に記載の骨板。

【請求項 12】

前記下部領域は、 $35^\circ$  から  $55^\circ$  までの角度で外向きにテーパが付けられた、請求項 9 に記載の骨板。

【請求項 13】

前記第 1 および第 2 の穴は、前記骨板の前記長手軸に沿って位置する、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 14】

2つの対向する端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端をかつ前記心棒の対向端に前記先端に対向して頭部を備えた第 1 の骨アンカー具を備え、前記第 1 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 1 の穴に係合し、

2つの対向する端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端をかつ前記心棒の対向端に前記先端に対向して頭部を備えた第 2 の骨アンカー具を備え、前記第 2 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 2 の穴に係合し、

前記第 2 の骨アンカー具の前記心棒は、トラスを形成するように前記下表面の下方の点の近傍で前記第 1 の骨アンカー具の前記心棒に接触する、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 15】

前記第 2 の骨アンカー具の前記先端は、前記第 1 の骨アンカー具の前記心棒に接触する、請求項 14 に記載の骨板。

【請求項 16】

前記第 2 の骨アンカー具の前記先端は、前記第 1 の骨アンカー具の前記先端に接触する、請求項 14 に記載の骨板。

【請求項 17】

2つの対向する端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端をかつ前記心棒の対向端に前記先端に対向して頭部を備えた第 1 の骨アンカー具を備え、前記第 1 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 1 の穴に係合し、

2つの対向する端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端をかつ前記先端に対向して頭部を有する第 2 の骨アンカー具を備え、前記第 2 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 2 の穴に係合して、

前記第 2 の骨アンカー具の前記心棒は、トラスを形成するように前記下表面の下方の点の近傍で前記第 1 の骨アンカー具の前記心棒に隣接する、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 18】

前記第 2 の骨アンカー具の前記先端は、前記第 1 の骨アンカー具の前記心棒に隣接する、

請求項 17 に記載の骨板。

【請求項 19】

前記第 2 の骨アンカー具の前記先端は、前記第 1 の骨アンカー具の前記先端に隣接する、請求項 17 に記載の骨板。

【請求項 20】

前記第 1 および第 2 の軸によって画成された前記平面は、前記長手軸に沿って前記骨板を二分する平面に対して角度を成して位置する、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 21】

前記角度は、約 3° と約 6° の間にある、請求項 20 に記載の骨板。

【請求項 22】

前記第 1 および第 2 の穴は、前記第 1 および第 2 の軸が前記交点で鋭角を画成するように構成される、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 23】

前記第 1 および第 2 の穴は、前記第 1 および第 2 の軸が前記交点で約 30° と約 45° の間の角度を画成するように構成される、請求項 22 に記載の骨板。

【請求項 24】

前記第 1 の軸は、前記骨板の前記下表面に対して実質的に直角である、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 25】

前記第 2 の軸は、前記骨板の前記下表面と実質的に鋭角を形成する、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 26】

前記第 1 および第 2 の穴の少なくとも一方は、骨アンカー具のねじを切られた頭部に係合するようにねじが切られた、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 27】

前記第 1 および第 2 の穴の少なくとも一方は、前記上表面から前記下表面まで円錐テーパが付けられた、請求項 26 に記載の骨板。

【請求項 28】

前記第 1 および第 2 の穴の少なくとも一方は、その中に骨アンカー具の端部がプレス嵌めされるように寸法決めされかつ構成された、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 29】

前記骨アンカー具の少なくとも一方は骨ねじである、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 30】

骨ねじを受け入れるための少なくとも 1 つの組合せ穴を更に備え、前記組合せ穴は第 1 部分および第 2 部分を有し、

前記第 1 部分は、第 1 の中心点を画成する実質的に円形外周囲を画成し、さらに

前記第 2 部分は、第 2 の中心点を画成する細長い外周囲を画成し、前記細長い外周囲は前記板の前記長手軸と実質的に平行な方向に伸延し、かつ前記第 2 部分は前記第 1 部分に重なる、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 31】

複数のねじ山が前記第 1 部分の上に配置される、請求項 30 に記載の骨板。

【請求項 32】

前記複数のねじ山は骨ねじの頭部にねじ込み係合する、請求項 31 に記載の骨板。

【請求項 33】

前記第 2 部分は、骨ねじの実質的に球形の頭部に係合するように構成されかつ寸法決めされる、請求項 31 に記載の骨板。

【請求項 34】

前記組合せ穴の少なくとも一部が、前記上表面および前記下表面の両方で座ぐりされる、請求項 30 に記載の骨板。

【請求項 35】

前記骨板の少なくとも一部は、前記長手軸に沿って厚みが変化する、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 36】

前記骨板は、第 1 端、第 2 端を更に備え、前記第 1 端は骨の一部の輪郭に実質的に一致するように寸法決めされかつ構成される、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 37】

前記第 1 端は、骨組織に固定するための縁部を有する鉤を含み、前記縁部は前記下表面の下に配置される、請求項 36 に記載の骨板。

【請求項 38】

前記鉤の前記縁部は、2つの離間した鉤爪によって画成される、請求項 37 に記載の骨板。

【請求項 39】

前記鉤は前記骨板と一体である、請求項 37 に記載の骨板。

【請求項 40】

骨ねじを受け入れるための少なくとも 1 つの組合せ穴を更に備え、前記組合せ穴は第 1 部分および第 2 部分を有し、

前記第 1 部分は、第 1 の中心点を画成する実質的に円形外周囲を画成し、かつ

前記第 2 部分は、第 2 の中心点を画成する実質的に円形外周囲を画成し、前記第 2 部分は前記第 1 部分に重なる、請求項 1 に記載の骨板。

【請求項 41】

複数のねじ山が、前記第 1 および第 2 部分のそれぞれの上に配置される、請求項 40 に記載の骨板。

【請求項 42】

複数のねじ山が、前記第 1 および第 2 部分の一方のみの上に配置される、請求項 40 に記載の骨板。

【請求項 43】

前記 2 つの部分は同方向にねじを切られた、請求項 41 に記載の骨板。

【請求項 44】

前記 2 つの部分は、相互に逆方向にねじを切られた、請求項 41 に記載の骨板。

【請求項 45】

前記ねじ山は、前記上表面から前記下方面に至る方向に、円錐内向きテーパを有する、請求項 41 に記載の骨板。

【請求項 46】

前記それぞれのねじを切られた部分は、約 190° から約 270° までの角度にわたって形成される、請求項 41 に記載の骨板。

【請求項 47】

骨板固定システムであって、

2 つの対向する端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端をかつ前記心棒の対向端にねじを切られた頭部を含む第 1 の骨アンカー具を備え、

2 つの対向する端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端をかつ前記心棒の対向端にねじを切られた頭部を含む第 2 の骨アンカー具を備え、

長手軸を画成する板であって、

上表面を備え、

下表面を備え、

前記第 1 の骨アンカー具の前記ねじを切った頭部を受け入れるための第 1 のねじを切られた穴を備え、前記第 1 のねじを切られた穴は、単一の予定された配向軸を有し、かつ、前記第 1 の骨アンカー具の前記心棒を前記第 1 の穴の前記配向軸に沿って予定された固定角度で固定するように構成されかつ適合されたものであり、さらに

前記第 2 の骨アンカー具の前記ねじを切られた頭部を受け入れるための第 2 のねじを切られた穴を備え、前記第 2 の穴は、単一の予定された配向軸を有し、かつ、前記第 2 の骨ア

ンカー具の前記心棒を前記第2の穴の前記配向軸に沿って予定された固定角度で固定するように構成されかつ適合されたものであって、

前記第1のねじを切られた穴および前記第2のねじを切られた穴は、前記第1および第2のねじを切られた穴の前記配向軸は、前記板の前記下表面の下方の点で交差し、さらに前記第1の骨アンカー具は前記第1のねじを切られた穴に係合するように構成されかつ適合されたものであり、さらに前記第2の骨アンカー具は、トラスを形成するために前記第2のねじを切られた穴に係合するように構成されかつ適合されたものである、骨板固定システム。

【請求項48】

前記第1および第2のねじを切られた穴は、前記長手軸に沿って離間されている、請求項47に記載の骨板固定システム。

【請求項49】

前記第1および第2のねじを切られた穴は、前記骨板の前記長手軸の上に位置する、請求項47に記載の骨板固定システム。

【請求項50】

前記骨板固定システムは、2つの対向する端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端をかつ前記心棒の対向端にねじを切られた頭部を含む第3の骨アンカー具をさらに備えて、前記板は、前記第3の骨アンカー具の前記ねじを切られた頭部を受け入れるための第3のねじを切られた穴を含み、前記第3のねじを切られた穴は、単一の予定された配向軸を有し、前記第3のアンカー具の心棒を前記第3の穴の前記配向軸に沿って予定された固定角度で固定するように構成されかつ適合されたものであり、そして、第3のねじを切られた穴の前記配向軸は、前記第1および第2のねじを切られた穴の前記配向軸によって画成された平面に対して角度を成して位置する、請求項47に記載の骨板固定システム。

【請求項51】

前記第3のねじを切られた穴は、前記第1のねじを切られた穴と第2のねじを切られた穴との間に配置された、請求項50に記載の骨板固定システム。

【請求項52】

前記第2の骨アンカー具の前記心棒は、前記下表面の下方の前記点の近傍で前記第1の骨アンカー具の前記心棒に接触するように寸法決めされた、請求項47に記載の骨板固定システム。

【請求項53】

前記第2の骨アンカー具の前記先端は、前記第1の骨アンカー具の前記心棒に接触する、請求項52に記載の骨板固定システム。

【請求項54】

前記第2の骨アンカー具の前記先端は、前記第1の骨アンカー具の前記先端に接触する、請求項52に記載の骨板固定システム。

【請求項55】

前記第2の骨アンカー具の前記心棒は、前記心棒が前記下表面の下方の前記点に近接して前記第1の骨アンカー具の前記心棒に隣接するように寸法決めされる、請求項47に記載の骨板固定システム。

【請求項56】

前記第2の骨アンカー具の前記先端は、前記第1の骨アンカー具の前記心棒に隣接する、請求項55に記載の骨板固定システム。

【請求項57】

前記第1および第2の骨ねじを切られた穴の前記配向軸によって画成された平面が、前記長手軸に沿って前記骨板を二分する平面に対して角度を成して位置する、請求項47に記載の骨板固定システム。

【請求項58】

前記角度は約3°と約6°の間にある、請求項57に記載の骨板固定システム。

【請求項59】

前記第 1 および第 2 のねじを切られた穴は、前記配向軸が前記交点で鋭角を画成するように構成される、請求項 4 7 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 0】

前記第 1 および第 2 のねじを切られた穴の前記配向軸は、前記交点で約 30° と約 45° の間の角度を画成する、請求項 5 8 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 1】

前記ねじを切られた穴の少なくとも一つは、前記上表面から前記下表面まで円錐テーパが付けられた、請求項 4 7 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 2】

前記骨板固定システムは、骨ねじを受け入れるための少なくとも 1 つの組合せ穴をさらに備え、前記組合せ穴は第 1 部分および第 2 部分を有し、

前記第 1 部分は、第 1 の中心点を画成する実質的に円形外周囲を画成し、さらに

前記第 2 部分は、第 2 の中心点を画成する細長い外周囲を画成し、前記細長い外周囲は、前記板の前記長手軸に実質的に平行な方向に伸延し、かつ前記第 2 部分は前記第 1 部分に重なる、請求項 4 7 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 3】

複数のねじ山が前記第 1 部分の上に配置される、請求項 6 2 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 4】

前記複数のねじ山は骨ねじの頭部にねじ込み係合する、請求項 6 3 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 5】

前記第 2 部分は、骨ねじの実質的に球形の頭部に係合するように構成されかつ寸法決めされる、請求項 6 2 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 6】

前記組合せ穴の少なくとも一部は、前記上表面および前記下表面の両方で座ぐりされる、請求項 6 2 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 7】

前記骨板の少なくとも一部は、前記長手軸に沿って厚みが増加する、請求項 4 7 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 8】

前記第 1 および第 2 の骨アンカー具の少なくとも一つは骨ねじである、請求項 4 7 に記載の骨板固定システム。

【請求項 6 9】

前記骨ねじは、前記骨ねじ板の前記頭部の上表面から前記骨ねじの前記心棒を貫通する連続溝を画成する貫通穴を有する、請求項 6 8 に記載の骨板固定システム。

【請求項 7 0】

前記骨板は第 1 端、第 2 端をさらに備え、前記第 1 端は骨の一部の輪郭に実質的に一致するように寸法決めされかつ構成された、請求項 4 7 に記載の骨板。

【請求項 7 1】

前記第 1 端は骨組織に取り付くための縁部を有する鉤を含み、前記縁部は前記下表面の下に配置される、請求項 4 7 に記載の骨板。

【請求項 7 2】

前記鉤の前記縁部は 2 つの離間した鉤爪によって画成される、請求項 7 1 に記載の骨板。

【請求項 7 3】

前記鉤は前記骨板と一体である、請求項 7 1 に記載の骨板。

【請求項 7 4】

骨固定システムであって、

2 つの対向端を含む心棒を有し、一端に先端を含みかつ前記先端に対向する前記心棒の他端に頭部を含む第 1 の骨アンカー具を備え、

2 つの対向端を含む心棒を有し、一端に先端を含みかつ前記先端に対向する前記心棒の他

端に頭部を含む第2の骨アンカー具を備え、  
骨板であって、  
上表面を備え、  
下表面を備え、

前記第1の骨アンカー具の前記頭部に係合するための第1の穴を備え、さらに  
前記第1の穴から離間された第2の穴を備え、前記第2の穴は前記第2の骨アンカー具の  
前記頭部に係合する、骨板を備え、  
前記第1の穴および前記第2の穴は、前記第1と第2の骨アンカー具が前記第1と第2の  
穴にそれぞれ挿入されると、第2の骨アンカー具が第1の骨アンカー具と常に交差してト  
ラスを形成するように構成される、骨固定システム。

【請求項75】

前記第2の骨アンカー具は、前記第2の骨アンカー具の前記心棒が、前記第1の骨アンカ  
ー具の前記心棒に接触するように寸法決めされかつ構成される、請求項74に記載の骨ア  
ンカー具。

【請求項76】

前記第2の骨アンカー具の前記先端は、前記第1の骨アンカー具の前記心棒に接触する、  
請求項75に記載の骨アンカー具。

【請求項77】

前記第2の骨アンカー具の前記先端は、前記第1の骨アンカー具の前記心棒に隣接する、  
請求項75に記載の骨アンカー具。

【請求項78】

骨板であって、  
上表面を備え、  
下表面を備え、

第1の長手軸を有する第1部分を備え、

第2の長手軸を有する第2部分を備え、前記第2部分は、前記第1の長手軸と前記第2の  
長手軸との間に挟角が画成されるように、前記第1部分に連結され、

第1の骨アンカー具の頭部に係合するための第1の穴を備え、前記第1の穴は、第1の固  
定軸を画成し、前記第1の骨アンカー具の心棒を前記第1の固定軸に沿って単一の予定さ  
れた角度で固定するように構成されかつ適合されたものであり、

第2の骨アンカー具の頭部に係合するための前記第1の穴から離間された第2の穴を備え  
、前記第2の穴は、第2の固定軸を画成し、前記第2の骨アンカー具の心棒を前記第2の  
固定軸に沿って単一の予定された角度で固定するように構成されかつ適合されたものであ  
って、

前記第1の穴および前記第2の穴は、前記第1の軸および前記第2の軸により画成される  
単一平面内であって前記板の前記下表面の下方の点で交差するように構成された、骨板。

【請求項79】

前記第1部分および前記第2部分は、単体材料から一体的に作製されたものである、請求  
項78に記載の骨板。

【請求項80】

前記第1および第2の穴は両方とも前記第2部分の中に配置された、請求項78に記載の  
骨板。

【請求項81】

前記第1部分は前記第2部分よりも長い、請求項78に記載の骨板。

【請求項82】

前記第1の長手軸と第2の長手軸との間の前記挟角は鈍角である、請求項78に記載の骨  
板。

【請求項83】

前記挟角は約150°から約155°までの角度である、請求項82に記載の骨板。

【請求項84】

前記第 1 の長手軸と第 2 の長手軸との間の前記挟角は鋭角である、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 8 5】

前記挟角は約 8 5 ° から約 9 5 ° までの角度である、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 8 6】

前記第 2 部分は、前記骨板が実質的に L 字形であるように前記第 1 部分に連結される、請求項 8 5 に記載の骨板。

【請求項 8 7】

前記第 2 部分は、前記骨板が実質的に T 字形であるように前記第 1 部分に連結される、請求項 8 5 に記載の骨板。

【請求項 8 8】

前記第 2 部分は、前記第 2 部分が前記第 1 部分の平面とは異なる平面内に位置するように前記第 1 部分に連結される、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 8 9】

前記骨板は、前記第 1 部分を前記第 2 部分に連結する移行部分をさらに備え、前記移行部分は第 3 の長手軸を有し、前記移行部分は、前記第 3 の長手軸が、前記第 1 の長手軸に対して第 1 の挟角を画成し、かつ前記第 2 の長手軸に対して第 2 の挟角を画成するように前記第 2 部分を前記第 1 部分に連結する、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 9 0】

前記第 1 および第 2 の挟角の少なくとも一方は実質的に鋭角である、請求項 8 9 に記載の骨板。

【請求項 9 1】

前記第 1 および第 2 の挟角の少なくとも一方は実質的に鈍角である、請求項 8 9 に記載の骨板。

【請求項 9 2】

前記移行部分の前記上表面は実質的に S 字形である、請求項 8 9 に記載の骨板。

【請求項 9 3】

前記第 2 の長手軸に沿った前記第 2 部分の前記下表面の少なくとも一部が曲率半径を画成する、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 9 4】

前記骨板は、2 つの対向端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端を含みかつ前記心棒の前記対向端に前記先端に対向して頭部が位置する第 1 の骨アンカー具をさらに備え、前記第 1 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 1 の穴に係合し、さらに、2 つの対向端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端を含みかつ前記心棒の前記対向端に前記先端に対向して頭部が位置する第 2 の骨アンカー具をさらに備え、前記第 2 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 2 の穴に係合しており、前記第 2 の骨アンカー具の前記心棒は、前記下表面の下方の前記点に近接して前記第 1 の骨アンカー具の前記心棒に接触する、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 9 5】

前記第 2 の骨アンカー具の前記先端は前記第 1 の骨アンカー具の前記心棒に接触する、請求項 9 4 に記載の骨板。

【請求項 9 6】

前記第 2 の骨アンカー具の前記先端は前記第 1 の骨アンカー具の前記先端に接触する、請求項 9 4 に記載の骨板。

【請求項 9 7】

前記骨板は、2 つの対向端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端を含みかつ前記心棒の前記対向端に前記先端に対向して頭部が位置する第 1 の骨アンカー具をさらに備え、前記第 1 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 1 の穴に係合し、さらに、2 つの対向端を含む心棒を有し、前記心棒の一端に先端を含みかつ前記心棒の前記対向端に前記先端に対向して頭部が位置する第 2 の骨アンカー具をさらに備え、前記第 2 の骨アンカー具の前記頭部

は前記第 2 の穴に係合しており、前記第 2 の骨アンカー具の前記心棒は、前記下表面の下方の前記点に近接して前記第 1 の骨アンカー具の前記心棒に接触する、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 9 8】

前記第 2 の骨アンカー具の前記先端は前記第 1 の骨アンカー具の前記心棒に隣接する、請求項 9 7 に記載の骨板。

【請求項 9 9】

前記第 2 の骨アンカー具の前記先端は前記第 1 の骨アンカー具の前記先端に隣接する、請求項 9 7 に記載の骨板。

【請求項 1 0 0】

前記第 1 および第 2 の穴は両方とも同じ部分の中に配置される、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 1 0 1】

前記第 1 および第 2 の穴は、前記第 1 および第 2 の中心軸が前記交点で鋭角を画成するように構成される、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 1 0 2】

第 3 の骨アンカー具の頭部に係合するための第 3 の穴を少なくとも備え、前記第 3 の穴は、第 3 の固定軸を画成し、前記第 3 のアンカー具の心棒を前記第 3 の軸に沿って単一の予定された角度で固定するように構成されかつ適合された、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 1 0 3】

前記第 3 の軸は前記第 1 および第 2 の軸の少なくとも一方と交差する、請求項 1 0 2 に記載の骨板。

【請求項 1 0 4】

前記骨板は、

心棒を有し、前記心棒の一端に先端を含みかつ前記心棒の前記対向端に前記先端に対向して頭部が位置する第 1 の骨アンカー具を備え、前記第 1 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 1 の穴に係合し、

心棒を有し、前記心棒の一端に先端を含みかつ前記心棒の前記対向端に前記先端に対向して頭部が位置する第 2 の骨アンカー具を備え、前記第 2 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 2 の穴に係合し、

心棒を有し、前記心棒の一端に先端を含みかつ前記心棒の前記対向端に前記先端に対向して頭部が位置する第 3 の骨アンカー具を備え、前記第 3 の骨アンカー具の前記頭部は前記第 3 の穴に係合し、

前記第 3 の骨アンカー具の前記心棒は、トラスを形成するために前記第 1 および第 2 の骨アンカー具の心棒の少なくとも一方に接触する、請求項 1 0 2 に記載の骨板。

【請求項 1 0 5】

前記第 3 の骨アンカー具の前記先端は、トラスを形成するために前記第 1 および第 2 の骨アンカー具の前記心棒の少なくとも一方に接触する、請求項 1 0 4 に記載の骨板。

【請求項 1 0 6】

前記第 3 の穴は、前記第 1 および第 2 の穴の平面とは異なる前記骨板の部分の中に配置される、請求項 1 0 4 に記載の骨板。

【請求項 1 0 7】

前記骨板は、前記第 1 部分を前記第 2 部分に連結する移行部分をさらに備え、前記第 2 部分は前記第 1 部分の平面とは異なる平面内にあり、前記第 3 の穴は前記移行部分の中に配置される、請求項 1 0 2 に記載の骨板。

【請求項 1 0 8】

前記第 1、第 2、および第 3 の穴の少なくとも 1 つは、骨固定具のねじを切った頭部と係合するようにねじが切られたものである、請求項 1 0 2 に記載の骨板。

【請求項 1 0 9】

前記第 1 および第 2 の穴の少なくとも一つは、骨固定具のねじを切った頭部と係合するよ

うにねじが切られたものである、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 1 1 0】

前記第 1 および第 2 の穴は、前記第 1 および第 2 の軸が前記交点で鋭角を画成するように構成された、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 1 1 1】

前記第 1 および第 2 の穴は、前記第 1 および第 2 の軸が、前記交点で約 30° と約 45° の間の角度を画成するように構成された、請求項 1 1 0 に記載の骨板。

【請求項 1 1 2】

前記第 1 および第 2 の中心軸によって画成された前記平面は、前記第 1 の長手軸に沿って前記骨板を二分する平面に対して角度を成して位置する、請求項 7 8 に記載の骨板。

【請求項 1 1 3】

前記角度は約 3° と約 6° の間にある、請求項 1 1 2 に記載の骨板。